

所 報

たまじむ

平成 27 年 7 月 1 日

第 1 号

東京都多摩教育事務所

東京都立川市錦町 46-3

Tel 042-524-7222

Fax 042-528-0985

※移転に伴い電話番号が変更しました。

多摩地区の学校教育の充実を目指して

東京都多摩教育事務所長

黒 田 則 明

多摩教育事務所は、「知・徳・体をバランスよく育み、次代を担う子供たちを育成する」を組織目標に掲げています。目標の実現のため、多摩地区の教育委員会と一層の連携を図りながら、学校教育の質の向上に資する価値ある情報を発信していきたいと考えています。

さて、昨年 7 月の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の小学校第 5 学年算数科の結果において、教科書の例題レベルの内容が身に付いていない子供が 15.4% いることが分かりました。この課題を解決していくために、各学校では、「習熟の程度に応じた習熟度別指導」、「学年を超えて分からない箇所に戻り指導」、「できる、分かるまで繰り返し指導」の徹底を目指していかねばなりません。



現在、多摩地区の各市町村では、子供の学力向上のための独自の施策が展開されています。

例えば、地域の方々や学生ボランティアを登用した放課後教室や土曜学習教室もその一つです。また、家庭学習の手引きやリーフレットを作成・配布したり、保護者会において家庭学習を進めるための工夫について保護者の方同士が情報交換を行ったりするなど、家庭学習の充実を図るための取組も見られます。

このように、各学校における習熟度別指導や、学校、家庭、地域が一体となった家庭学習などをさらに推進していただき、子供たちのよりよい学びの実現につなげていただきたいと思います。

今年度も、多摩教育事務所は、学校教育の充実に向けた視点として「学校経営」、「授業改善」、「健全育成」の三つを掲げて取り組んでいきます。多摩地区教育推進委員会では「これからの時代に求められる資質・能力の育成」を研究テーマに掲げ、研究を進めていきます。所報「たまじむ」では、それらの途中経過や東京都の喫緊の課題等について、教員の指導力及び学校の教育力向上のために発信を行っていきます。

ぜひ、所報「たまじむ」を通して日々の指導内容について振り返っていただくとともに、各学校における教育目標を実現するための方策として取り入れていただきたいと思います。

◇ ◇ 目 次 ◇ ◇

【巻頭言】	多摩地区の学校教育の充実を目指して	1
【特集】	これからの時代に求められる資質・能力の育成 — 学びの質や深まりを重視した PDCA サイクルを通して —	2～3
【特集】	情報活用能力を育む — 主体的な検索・収集、整理、表現・創造 —	4～5
【特集】	チームワークの形成とリーダーシップの確立 — 協働的な活動を通して —	6～7
【情報】	平成 27 年度東京都多摩教育事務所指導課の主な事業紹介	8

本号については、東京都多摩教育事務所のホームページからダウンロードできます。
ファイルの形式は PDF です。

<http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp/>

これからの時代に求められる資質・能力の育成 —学びの質や深まりを重視した PDCA サイクルを通して—

子供たちを取り巻く社会は、今後、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等による社会構造や雇用環境など、急激な変化が予想されます。

- ➡ これからの時代を生きる子供たちには、こうした変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けることが求められます。
- ➡ それに伴い、授業を通して子供たちにどのような力が身に付いたのかが一層重視されます。

- ➡ 今後学校は、学ぶことと社会のつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視するとともに、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点から、学習・指導方法や学習評価の在り方の改善に取り組むことが求められます。
- ➡ そこで本特集では、これからの時代に求められる資質・能力を指向し、「どのような力を身に付けるか」、「どのように学ぶか」、「学びの成果としてどのような力を身に付けたか」という学びの質や深まりを重視した P D C A サイクルの在り方について、知の側面及び心の側面から紹介します。

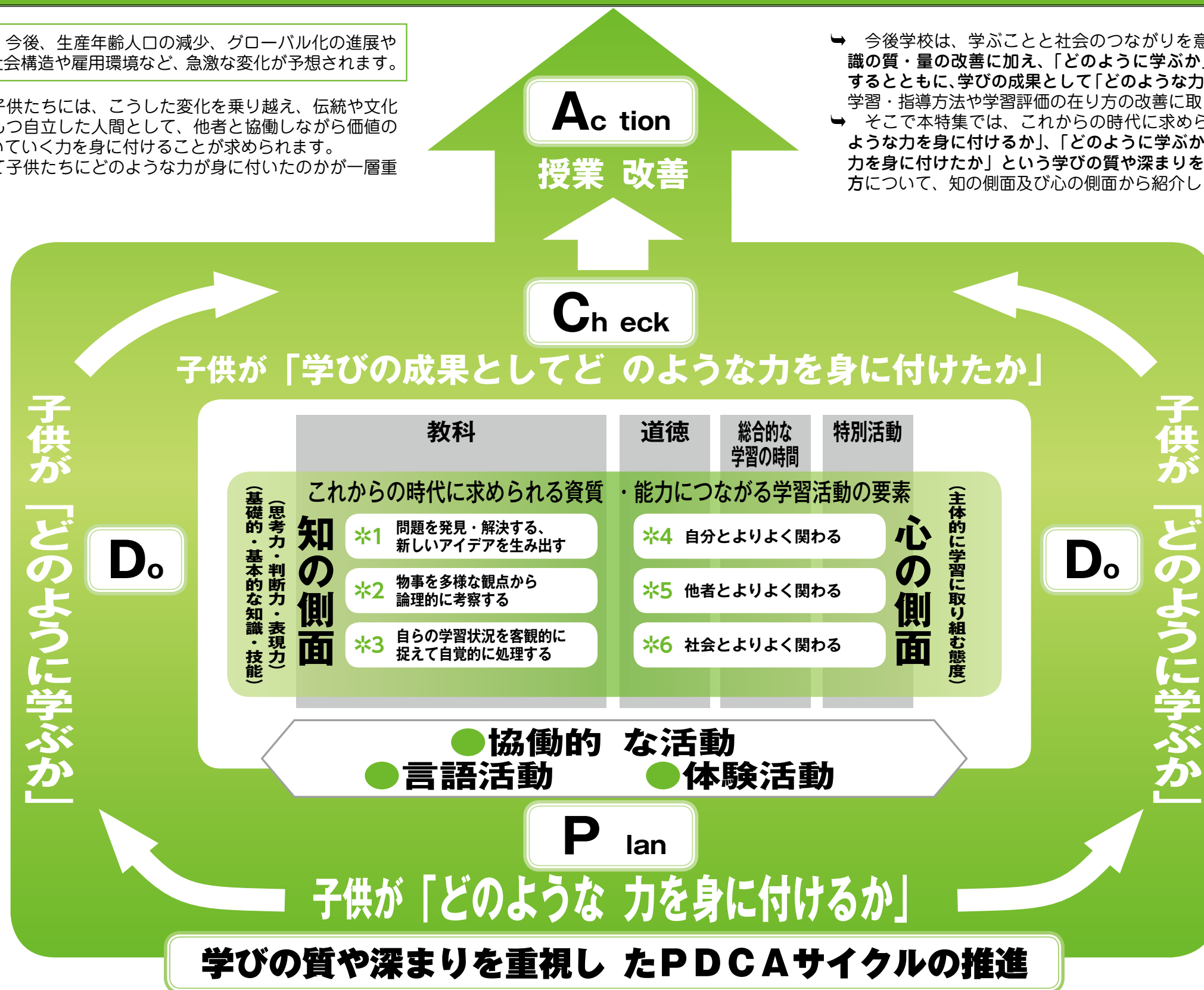
知の側面 事例

【教科】中学校 数学
単元名「資料の活用」
問題解決の過程における思考力の育成

【身に付ける力】
思考の過程や判断の根拠などを数学的に表現して説明する力
【一単位時間の指導の概要】

- 課題把握
意見、考え方が複数になる課題を把握する。
- 個の学び
【基礎コース】 課題から考えられる視点を選択し、根拠を説明する。
【発展コース】 課題から自分なりの考えと根拠を説明する。
●言語活動 *2 ●言語活動 *1
- 学び合い
互いに考えを説明し合い、他の考えに対して意見を発表する。
●言語活動 ●協働的な活動 *2
- 個の学び
自分の考えを再構築し、説明する。
●言語活動 *2
- 振り返り
同じような課題に解決する際に、どう考えればよいか振り返る。
●言語活動 *3

【指導の工夫】
意見が分かれる教材の工夫



心の側面 事例

【教科等】小学校 総合的な学習の時間
単元名「お店番体験」
地域参画型の学習による問題解決力の育成

【身に付ける力】
○ 地域社会とのつながりを意識して、主体的に取り組む態度
○ 問題の状況から課題を発見し、解決する力
【単元の指導計画の概要】

- 地域の商店街を調べ、自分にできることを考える
●言語活動 *4
- 地域の商店街で働く方との交流を通して、問題解決のための方法を考える。
●協働的な活動 *5
- 地域の商店街でのお店番を体験する。
●体験活動 *6
- 体験で学んだことを生かして、お店を紹介するポスター等を作成し、地域の祭りで発表する。
●言語活動 ●協働的な活動 *6
- 地域の商店街で働く方を招待し、学習の成果を発表する。
●言語活動 *5

【指導の工夫】
自分の生活に結び付く指導

本特集の活用例 ○ 校内研修会資料 ○ 教科等研究会資料 ○ 校長会及び副校長会資料 ○ 各種主任会資料 等

本特集については、今年度の多摩地区教育推進委員会において事例を開発して報告します。

〈参考文献〉 ○ 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（中央教育審議会 平成26年11月20日） ○ 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会 — 論点整理 —（文部科学省 平成26年3月）
○ 東京都教育ビジョン第3次（東京都教育委員会 平成25年4月） ○ 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程 編成の基本原則（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成25年3月）

情報活用能力を育む ―主体的な検索・収集、整理、表現・創造―

現在、ICT機器の普及により、必要な情報を「いつでも」、「どこにいても」調べられる便利な時代を迎えています。平成25年度の文部科学省の情報活用能力調査では、家庭でインターネットを利用して必要な情報を探したこのある子供は「小学生は86.5%」、「中学生は92.8%」いるとの結果が出ています。

- ➡ しかし、調べた情報が正しい情報が判断したり、複数の情報から目的に応じて、特定の情報を見付け出し、関連付けたりすることに課題が見られます。
- ➡ 今後、子供たちがICT機器を含む情報手段を効果的に利用していくためには、学校教育において、インターネットのみならず様々な情報源(体験活動を含む)から「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、相手の状況などを踏まえて発信・伝達できる実践力（情報活用能力）」を育むことが大切です。
- ➡ そこで、本特集では、問題解決型の学習の過程で情報活用能力を育むための指導のポイントを紹介します。

	情報の検索・収集	情報の整理	学び合い・考えの再構築	情報の表現・創造																														
▲課題 こんな子供は いませんか。	〇〇について調べましょう。 どうやって調べればよいの。 とりあえずインターネットで調べれば十分だね。 ① 調べものをするとき、できるだけ多くの資料を集めてから、自分の探していることを見つけるようにしている。 <table border="1"> <tr> <td>小学生</td> <td>41.6</td> <td>58.4</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>39.4</td> <td>60.6</td> </tr> </table> ■当てはまる、どちらかといえば当てはまる ■当てはまらない、どちらかといえば当てはまらない	小学生	41.6	58.4	中学生	39.4	60.6	インターネットで検索したら、たくさんの結果が…。 とりあえず、一番上の検索結果でいいや。 ② 集めた資料を比べて共通点や違いを見つけ出すようにしている。 <table border="1"> <tr> <td>小学生</td> <td>37.6</td> <td>60.6</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>33.8</td> <td>64.3</td> </tr> </table> ■当てはまる、どちらかといえば当てはまる ■当てはまらない、どちらかといえば当てはまらない 無回答	小学生	37.6	60.6	中学生	33.8	64.3	せっかく完成したのに、直す必要なんてないよ。 なぜ、友達の意見を聞いて自分の考えを見直す必要があるの。 ③ 意見が異なる相手との話し合いについて、「異なる部分は触れない」、「早く話を終わらせる」と回答した生徒の割合 - 異なる部分に触れない …… 21.9% - 早く話を終わらせる …… 21.3%	結局、調べたことを丸写ししただけだったな。 調べてまとめてみたけれど、この後、何するの。 ④ 「平成26年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」の各教科における「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の正答率 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>国語</td> <td>社会</td> <td>算数(数学)</td> <td>理科</td> <td>英語</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>41.5</td> <td>50.7</td> <td>33.6</td> <td>48.6</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>59.9</td> <td>43.7</td> <td>12.0</td> <td>37.3</td> <td>18.2</td> </tr> </table>		国語	社会	算数(数学)	理科	英語	小学生	41.5	50.7	33.6	48.6	—	中学生	59.9	43.7	12.0	37.3	18.2
小学生	41.6	58.4																																
中学生	39.4	60.6																																
小学生	37.6	60.6																																
中学生	33.8	64.3																																
	国語	社会	算数(数学)	理科	英語																													
小学生	41.5	50.7	33.6	48.6	—																													
中学生	59.9	43.7	12.0	37.3	18.2																													
◎目指す子供像 次のような子供を 育てませんか。	課題を解決するために、調べる方法を選択しながら多面的・多角的な視点で検索し、複数の情報を集めようとする子供 〇〇するために、自分たちができることは何かな。 〇〇について調べて、それを広めようよ。そのためには、まず図書館で関連の本をいくつか調べてみたいな。 インターネットだけでなく、地域の人からインタビューする方法もあるね。	集めた複数の情報を比較・関連付け・総合して考えようとする子供 まずは、集めた情報を仲間分けしてみよう。仲間分けした情報から関連していることは何かな。 どちらの資料が相手に分かりやすい資料かな。	他者との交流を通して、自分の考えを再構築しようとする子供 私は、Cさんのグラフの使い方が分かりやすいと思うけど、Bさんはどう思いますか。 なるほど、Aさんのような視点で「〇〇」のことを考えることができるね。直してみるわ。	ICT機器等を利用して、考えたことを、知識・経験を基に、新たな情報や価値ある情報を分かりやすく発信し、相手に伝えようとする子供 私は、地域の方とお話をして、もっと地域のよさを広めていくために自分たちができることを考えていきたいと思いました。 自分が調べたことを下級生に分かるように、写真や図を使ってパソコンでまとめました。																														
指導事例	小学校 第6学年 国語科 単元名 オリンピックで訪れた外国の人に私たちの町のよさを伝えよう ― 外国の人が見て楽しい、知って得する、すてきなパンフレットを作ろう ― ○ 外国の人に自分たちのことを知ってもらうとともに、自分の住んでいる地域を楽しんで過ごしてもらうために、自分たちができることを考える。 - 町のよさを伝えるパンフレットを作ろう。 【情報の検索・収集】 - 自分たちの町のよさについて、地域の方へのインタビューや実地調査、インターネット(複数のキーワードで検索)などを利用して情報収集を行う。 ココがポイント 既習の調べる方法を想起させ、情報の調べ方について新たな方法を提示する。 【情報の整理】 - 収集した情報を分類し、伝えたい内容を決める。 - 伝えたい内容を効果的に表現するために分類した情報から使用する情報を選択する。 【表現・創造】 - 調べたことの引用、地図、絵、写真、図表やグラフなどを用い、事実と感想などを区別し、相手に分かりやすいパンフレットを作成する。 - パンフレットで紹介しきれない情報については、タブレットを併用して説明できるよう構成を考える。 ココがポイント 収集した知識や情報を目的に合わせて比較し、関連のあることをまとめたり、分類したりできるよう何のために情報の整理を行うか想起させる。 ○ パンフレットとタブレットを使って発表し合って交流し、自分の考えを深めるとともに、自分の作品をよりよくするために助言を求める。 - 修正すべき内容とともに、どのように修正すればよいのかを具体的に学ぶ。 - 他者のパンフレットについて推敲の箇所を明確にする。 ココがポイント 資料(タブレットの併用)を提示しながら説明させる。また、聞くときには、外国の人の立場(役割)に立って聞かせ、もっと知りたいことや聞きたいことを考えさせ、質問させる。 【情報の検索・収集】、【表現・創造】 - 新たな視点で情報を収集し、必要に応じてパンフレットの内容を訂正する。 【表現・創造】 - パンフレットを画像として保存し、ホームページに掲載したり、町にあるお店等に置いたりパンフレットを広める。 ○ 相手や目的に応じた文章の書き方など、単元で身に付けた力について振り返る。 ココがポイント 目的意識、相手意識を想起させ、完成した資料を、どのように活用し、広めていけるかなど、考えさせる。																																	

本特集の活用例 ○ 校内研修資料 ○ 教科等研修会資料 ○ 授業改善等に関する資料 など

<データ出典> ○ (課題①、②) 情報活用能力調査の結果(文部科学省 平成25年度) ○ (課題③) 多摩地区のある中学校第1学年170名を対象とした調査 ○ (課題④) 平成26年度児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書(東京都教育委員会 平成26年11月)

<参考文献> ○ 小学校学習指導要領解説国語編(文部科学省 平成20年8月)

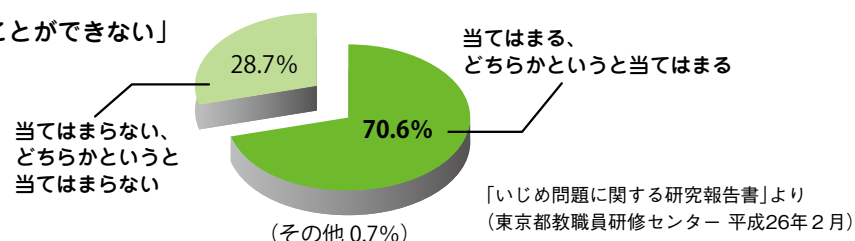
チームワークの形成とリーダーシップの確立 ―協働的な活動を通して―

- ◆ 変化の激しいこれからの社会では、答えのない課題に対して、一人一人が自分の考えや知識をもち寄り、他者と協働することによって解を見だし、さらに新たな問いが立てられるような資質や能力が求められています。
- ◆ 今後学校では、これからの時代に求められる、他者と協働するためのチームワークの形成とリーダーシップの確立を見据え、他者と協働する活動の質を高めていくことが必要です。
- ◆ そこで本特集では、各教科等の目標の実現に向けて協働的な活動を取り入れる際の指導の工夫を、「自分とよりよく関わる」、「他者とよりよく関わる」、「社会とよりよく関わる」観点から、事例を通して紹介します。

1 他の方の気持ちを考えることが難しい

◇「私はほかの方の気持ちになることができない」と回答した子供は、

70.6%

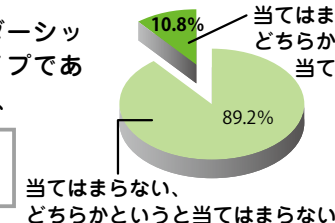


課 題

2 リーダーシップをとることが苦手である。

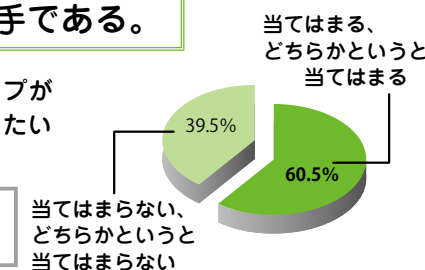
◇ 自分はリーダーシップがとれるタイプであると思う子供は、

10.8%



◇ リーダーシップがとれる人になりたいと思う子供は、

60.5%



意見や立場の異なる他者と目標を共有し、他者と協働して課題解決することができる子供

目指す 子供像

チームのメンバーの能力や気持ちに配慮しながら、課題解決に導くことができる子供

協働的な活動を通して、チームワークの形成やリーダーシップの確立を図る

【チームワークの形成】 小学校6学年・中学校2学年「特別活動」 異校種間交流

ー「いじめ防止プロジェクト」ー

<身に付ける力>

- 望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度。

学級活動	児童会・生徒会活動	小・中学生で構成するプロジェクト委員会
○ 日々の学校生活を振り返り、いじめをなくすための取組を考える。 ※関連事項 ○ 道徳「公平・公正・社会正義」の内容を取り上げ、自己の道徳的価値を深める。 <協働的な活動> ○ 各班で具体的なアイデアを考える。 ○ 各自が自分の役割を果たし協力して取り組む。 ○ 自分の班の取組について、班を再編成して紹介する。	○ 各学級の取組を共有し、学校として立ち上げる。	<協働的な活動> ○ 小・中学校の取組を情報交換し、校区で共通で行ういじめをなくすプロジェクトを地域の方からの意見も取り入れて考える。 ○ 小・中の縦割りの班を編成した上で、役割分担し、班で協力してプロジェクトの運営準備を行う。 ○ プロジェクト委員会は、学級、学校、保護者及び地域に発信し、参加募集を行う。 ○ 各プロジェクトの成功を目指し、班で協力して運営する。 ○ 各プロジェクトの結果を報告し合い、「いじめ防止宣言」としてまとめる。 ○ 小・中学校の一員として、よりよい学校となるよう、協力して問題解決できたか振り返る。

協働的な活動を通して 目指す子供の姿

<自分とよりよく関わる>

- ◆ これまでの自分の行動を振り返り、「いじめをなくすために何ができるか」という自分の問題として向き合い、取組について考える。

<他者とよりよく関わる>

- ◆ 様々な意見を取り入れ、プロジェクトの内容を話し合い、決定する。
- ◆ 班の中で役割を決め、連絡を取り合いながらそれぞれの準備を進める。
- ◆ 内容について他の班と調整する。

<社会とよりよく関わる>

- ◆ 地域からの意見や支援をもらい、様々な意見を集約して活動する。
- ◆ 家庭や地域に向けて、いじめ防止宣言を発表する。

【リーダーシップの確立】 小学校第4学年「音楽」 異学年交流

<身に付ける力>

- 進んで音楽にかかわり、音楽に対する関心を持ち、音楽表現の学習に自ら取り組みようとする態度。
- 音楽表現の基礎的な技能を伸ばして、歌ったり、楽器を演奏したりする力。

1年生に校歌を教える活動	3年生にリコーダーを教える活動
○ どのようにしたら1年生が校歌を楽しく覚えることができるか、各学級で話し合う。 <協働的な活動> ○ 1年生と4年生の縦割り班を組織し、役割分担する。 ○ 各班で役割分担して1年生に教える方法を考える。 ○ 1年生に校歌を教えた方法を別の班の友達と振り返り、意見を交換する。 ○ 音楽集会等での1年生の歌声を聴き、声を合わせて歌うことができたかを振り返る。	○ 合同リコーダー演奏会に向けて、3年生とどのように練習していけばよいか考える。 <協働的な活動> ○ 3年生と4年生の縦割り班を組織し、役割分担する。 ○ 各班で練習方法を考え、協力して練習する。 ○ 授業の終わりに各班が成果を発表し、他の班のよさを取り入れながら練習を重ねる。 ○ 音楽に対して関心を持ち、リコーダーの基礎的な技能を伸ばし、演奏することができたかを振り返る。

協働的な活動を通して 目指す子供の姿

<自分とよりよく関わる>

- ◆ 仕事の内容を明確に理解するとともに、リーダーとしての意識を高める。

<他者とよりよく関わる>

- ◆ それぞれの活動に必要な役割を考え、4年生同士で相談しながら分担を決める。
- ◆ 1年生・3年生の立場に立って練習の日程などを考える。
- ◆ 練習の方法について、班員の考えをまとめ、よりよい方法を決める。
- ◆ 班員がそれぞれの役割を果たすとともに、助け合いながら練習を進められるよう進行管理する。
- ◆ リーダーとしての苦労や、うれしかったことを学級で共有する。

本特集の活用例 ○学級経営に関する資料 ○校内研修会資料

〔参考資料〕 ○ 小学校・中学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省 平成20年8月・9月） ○ 小学校学習指導要領解説 音楽編（文部科学省 平成20年8月） ○ 東京都教職員研修センター紀要第14号（平成27年3月）
○ 「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」（文部科学省 国立教育政策研究所 平成25年7月） ○ 「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）学級活動の基本 話し合い活動を中心にして」（文部科学省 国立教育政策研究所 平成26年6月）

平成27年度 東京都多摩教育事務所指導課の主な事業紹介

1 東京都多摩地区教育推進委員会（通称「多摩推」）

研究主題

これからの時代に求められる資質・能力の育成 － 学びの質や深まりを重視した PDCA サイクルを通して －

次期の学習指導要領の方向性を見据えた上で、「これからの時代に求められる資質・能力」の育成を指向し、現行の学習指導要領の具現化を図ります。

その際、「どのような力を身に付けるか」、「どのように学ぶか」、「学びの成果としてどのような力を身に付けたか」という学びの質や深まりを重視したPDCAサイクルの在り方について、知の側面（学力向上）及び心の側面（健全育成）から追究し、事例を通して提言を行います。

研究内容につきましては、所報「たまじむ」の特集記事として紹介していきます。

報 告 会

日時 平成28年2月12日(金)
午後2時から午後4時30分まで

会場 東京都多摩教育センター ホール

2 訪問指導

学校及び市町村教育委員会の要請を受けて、統括指導主事、指導主事及び教育専門員が指導訪問を行います。指導課長の訪問については、市町村教育委員会指導室課長の依頼を受けて複数校を対象に行います。

校内研究、校内の授業力向上に係る研修会、各市町村の教科等研究会、生活指導に係る研修会等、ぜひ御相談ください。

TEL 042-524-7222（指導課直通）

平成26年度の指導訪問例

- ▷ 校内研修会(授業研究及び研究協議会 等)
- ▷ 健全育成(いじめ、不登校等)に関する研修会
- ▷ 教科に関するスキルアップ研修会 など

職 名	氏 名	担 当
指 導 課 長	宇田 剛	学校経営、教育課題、英語
統 括 指 導 主 事	浅野あい子	学校経営、教育課題、算数、数学
指 導 主 事	吉岡 琢真	図画工作、美術、教育課程
指 導 主 事	大久保順子	技術・家庭科、特別活動
指 導 主 事	濱田 昌也	算数、数学、生活指導
指 導 主 事	堀合 葉子	算数、数学、道徳
指 導 主 事(併任)	大津 嘉則	特別支援教育、図画工作、美術
指 導 主 事(併任)	田中 暁	体育、保健体育
指 導 主 事(併任)	渡邊 啓介	体育、保健体育
教 育 専 門 員	村井 恒	算数、数学
教 育 専 門 員	飯田 薫	国語
教 育 専 門 員	菊池 春海	社会
学校教育指導専門員	對馬伸一郎	各市町村教育委員会への支援
学校教育指導専門員	蒔田 誠	各市町村教育委員会への支援

所報「たまじむ」の特集内容についても、指導訪問を行います！

過去の所報「たまじむ」は、多摩教育事務所のホームページからダウンロードできます。ぜひ御活用ください。

<http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp/syohou/toppage.html>



次号
予告

「たまじむ」第2号
10月30日発行予定

- 特集① グローバル社会で求められる力の育成
 特集② 子供の主体的な学習活動を促す指導の工夫
 特集③ 子供の実態をつかみ、適切に支援するための指導の工夫
 特集④ 子供が自ら課題を発見・設定する授業

※ タイトルについては変更する場合がありますので、御了承ください。